

ROTARY CLUB
ITOIGAWA



2025～2026年度

R I テーマ よいことのために手をとりあおう

地区運営方針 ローターリーで善の循環を

糸魚川RCテーマ みんなでよい活動しよう



週報

糸魚川

2026.1.29
第3065例会
No.27

◆会 長 赤星賢二 ◆クラブ会報雑誌 長谷川淳一
◆例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210
◆例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30
◆創 立 1960年9月10日 ◆承認 1960年10月12日
◆事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225
◆糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>
◆第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

🌀 本日のプログラム 🌀

- ・点 鐘
- ・四つのテスト
- ・会 歌 奉仕の理想
- ・会長挨拶
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・卓話

ゲスト卓話

フォッサマグナミュージアム 学芸員

小河原 孝彦 様

「交流人口によるまちづくり」

- ・点 鐘

本日のお客様

フォッサマグナミュージアム 学芸員

小河原 孝彦 様

次回例会プログラム

◇2月5日(木)

ゲスト卓話

「SNS広報の運営について」

糸魚川市役所 商工観光課 企業支援係

杉本 晴一 様

出席報告

◆1月22日(木) 16名

幹事報告

◇第8回定例理事会開催案内

日 時 1月29日(木) 13:40～(例会終了後)

会 場 ヒスイ王国館 姫川

◇夜間移動例会「味覚の会」開催案内

日 時 2月12日(木) 18:30～

会 場 煌凜丸

会 費 4,000円 ※昼例会はありません

◇2026-27年度 会長エレクトラーニングセミナー開催案内

日 時 3月28日(土)

会 場 南魚沼市民会館

会 費 5,000円

出席者 平野君、歌川君、赤星君、斉藤君

ニコニコ箱 1月22日 *****

赤星 賢二君 本日は笠原理事長様、佐藤専務理事様
お忙しいところありがとうございます。

小田島修平君 笠原理事長、佐藤専務理事、ご苦労様
です。卓話よろしくお願いいたします。

猪又 直登君 笠原理事長、佐藤専務理事、本日
は悪天候の中ありがとうございます。
1年間頑張ってください。

◆中央RCコーナー

1月30日(金) ゲスト卓話

株式会社第四北越銀行 糸魚川支店

佐藤 光 様

コンサルティング事業部 副部長

小林 俊樹 様

「事業継承について」

◆個人寄付 1月22日 (3名 9,000円)

氏 名	スマイル	R財団	米山財団
赤星 賢二 君	1,000	1,000	1,000
小田島修平 君	1,000	1,000	1,000
猪又 直登 君	1,000	1,000	1,000
合 計	3,000	3,000	3,000

1月22日の卓話 *****

ゲスト卓話

一般社団法人糸魚川青年会議所

理事長 笠原 翔太 様

専務理事 佐藤 進哉 様

「2026年度の取組について」



私は糸魚川市能生に生まれ、能生小学校、能生中学校を卒業いたしました。高校は上越市内に進学し、その後、大学進学を機に上京いたしました。大学では6年間勉学に励み、卒業後は就職活動を経て住友林業株式会社に入社いたしました。

入社した年は、リーマンショックの影響が徐々に落ち着きを見せる一方で、3月には東日本大震災が発生するなど、社会全体が大きく揺れ動いた年でもありました。そのような中で、さまざまな業界や職種に触れる機会を得ることができ、今振り返ると非常に貴重で、良い経験だったと感じております。

住友林業には6年間在籍し、2018年に地元・糸魚川へ戻り、家業である笠原建設に入社いたしました。同年、糸魚川青年会議所にも入会しました。それから7年間在籍続けております。

糸魚川青年会議所は1967年に設立され、今年で59年目を迎える組織です。

以下は、青年会議所設立当時の主義書の一文であります。

「申し上げるまでもなく、社会主義に立脚し、清く、明るく、豊かな社会の建設に、私共青年の力を精集すること、地域社会の経済、文化などあらゆる諸問題を研究調査し、改善のために努力すること、そのためには私共が相互の理解を深め、訓練し、親睦を図るための基調となる組織こそ鍼灸の要と思わされるのであります。」

この一文を私なりに解釈すると、自らが成長し、その成長を社会や会社に還元することで、豊かな社会を実現するための組織であると理解しました。

その後、先輩方の熱い情熱と地域の皆様のご協力のもと、「おまんた祭り」や「日本海クラシックカーレビュー」といった、今では糸魚川に欠かせないお祭りが生み出され、それらが脈々と受け継がれています。これこそが、糸魚川青年会議所の歩みであると感じています。

私自身、この糸魚川青年会議所に入会して8年目となりますが、入会から半分ほどの期間はコロナ禍の影響もあり、今振り返ると、決して十分な活動ができた会員だったとは言えないのではないかと考えてい

ます。

しかし、2024年に委員長を務めさせていただいた一年は、私のJC人生の中で最も印象に残る年となりました。スポコミというイベントを誘致し、明星セメント様をはじめとする市内企業の皆様にご協賛をいただき、事業を実施することができました。

このイベントは、これまで青年会議所ではあまり取り組んでこなかったものでしたが、150人規模の事業を無事に終えることができ、大きな達成感を得ることができました。一方で、「これで本当に良かったのだろうか」と自問する気持ちも残りました。

当時は、委員長として何か大きなことを成しげたいという思いが強く、その思いを原動力に事業を行いました。本当に求められていた事業であったのかという疑問を、今でも心の中に抱えています。委員長として当時感じたこと、そして今改めて感じていることを、今年の組織運営にしっかりと生かしていきたいと考えております。

そのような経験を踏まえ、今年のテーマとして「かける ～未来に願いを・過去に感謝と尊敬を～」というスローガンを掲げました。このスローガンは、私が青年会議所の理事長を務めると決心したとき、真っ先に頭に浮かんだ思いです。

少し壮大な話にはなりますが、戦時中、自分たちのことを後回しにしながら、未来の子どもたちに希望を託してくれた先人たちの思い、そして文字通り命を懸けて国や地域のために尽くしてくださった先輩方への感謝と尊敬を、リーダーである私自身が忘れてはならないと強く感じました。また、そのくらいの覚悟を持って、この役職に臨まなければならないという思いから、このスローガンを選びました。

さらに、メンバー一人ひとりにも、自分たちの可能性にける、地域の未来にけるといった前向きな気持ちを持ってもらいたいと考えています。来年、糸魚川青年会議所は60周年という大きな節目を迎えます。その節目に向けて、希望と覚悟を胸に、一年間活動していきたいという思いを、このスローガンに込めました。

